

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年7月12日(2007.7.12)

【公開番号】特開2002-275318(P2002-275318A)

【公開日】平成14年9月25日(2002.9.25)

【出願番号】特願2001-77676(P2001-77676)

【国際特許分類】

C 0 8 L 23/02 (2006.01)

C 0 8 F 210/18 (2006.01)

C 0 8 J 3/24 (2006.01)

C 0 8 J 5/00 (2006.01)

C 0 8 L 47/00 (2006.01)

C 0 8 L 83/05 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 23/02

C 0 8 F 210/18

C 0 8 J 3/24 C E S A

C 0 8 J 5/00 C E S

C 0 8 L 47/00

C 0 8 L 83/05

【手続補正書】

【提出日】平成19年5月29日(2007.5.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

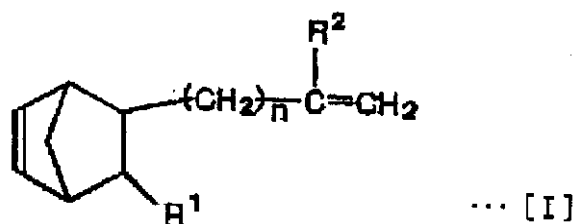
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】非共役ポリエンである下記一般式 [I] または [II] で表わされる少なくとも一種の末端ビニル基含有ノルボルネン化合物 (1) から導かれる構成単位と、下記一般式 [III] で表わされる基を含有する非共役ポリエン化合物 (2) から導かれる構成単位とを有するエチレン・ - オレフィン・非共役ポリエンランダム共重合体ゴム (A) 4 0 ~ 9 5 重量部と、ポリオレフィン樹脂 (B) 5 ~ 6 0 重量部 [成分 (A) と成分 (B) との合計量は 1 0 0 重量部とする] とを、S i H 基を 1 分子中に少なくとも 2 個持つ S i H 基含有化合物 (C) の存在下に、動的に熱処理することにより得られることを特徴とするオレフィン系熱可塑性エラストマー組成物；

【化 1】

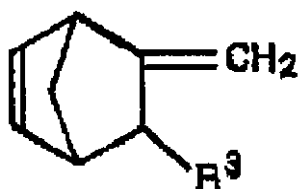


[式中、n は 0 ないし 1 0 の整数であり、

R¹ は水素原子または炭素原子数 1 ~ 1 0 のアルキル基であり、

R² は水素原子または炭素原子数 1 ~ 5 のアルキル基である]、

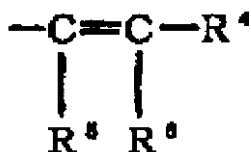
【化 2】



... [II]

[式中、 R^3 は水素原子または炭素原子数 1 ~ 10 のアルキル基である]、

【化 3】



... [III]

[式中、 R^4 は炭素原子数 1 ~ 10 のアルキル基であり、

R^5 および R^6 は、それぞれ独立に、水素原子または炭素原子数 1 ~ 10 のアルキル基である]。

【請求項 2】

前記 SiH 基含有化合物 (C) の他に、さらに、触媒 (D) を存在させることを特徴とする請求項 1 に記載のオレフィン系熱可塑性エラストマー組成物。

【請求項 3】

前記 SiH 基含有化合物 (C) の他に、さらに、触媒 (D) と反応抑制剤 (E) を存在させることを特徴とする請求項 1 に記載のオレフィン系熱可塑性エラストマー組成物。

【請求項 4】

前記エチレン・ α -オレフィン・非共役ポリエンランダム共重合体ゴム (A) が、(i) エチレンと炭素原子数 3 ~ 20 の α -オレフィンとのモル比 (エチレン / α -オレフィン) が 40 / 60 ~ 95 / 5 の範囲にあり、(ii) ヨウ素価が 0.5 ~ 50 の範囲にあり、(iii) 1,3,5-シクロヘキサリン溶液で測定した極限粘度 [] が 0.3 ~ 1.0 dl / g の範囲にあり、(iv) 動的粘弾性測定器により求めた分岐指数が 5 以上であることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載のオレフィン系熱可塑性エラストマー組成物。

【請求項 5】

前記ポリオレフィン樹脂 (B) が、沸騰ヘプタン不溶部のアイソタクチック・ペンタッド分率が 0.955 以上で、かつ、沸騰ヘプタン可溶部の含有量が 9 重量% 以下であるポリプロピレン系樹脂であることを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載のオレフィン系熱可塑性エラストマー組成物。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載のオレフィン系熱可塑性エラストマー組成物からなることを特徴とする成形体。